令和8年度8月定例県議会教育・スポーツ委員会

R8.11.４

●県立学校における9月8日の大雨の対応について

問１．神戸

もう２か月前になりますが、９月８日の大雨では県内で大きな被害がありました。後ほど、この被害状況については述べたいと思いますが、先にお尋ねいたします。

今年の５月から、新たな防災気象情報が発表されるようになりました。これは令和６年６月に取りまとめられた「防災気象情報に関する検討会」の提言を踏まえ、令和８年５月 29 日から新たな防災気象情報の運用を開始されたものです。河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報等は、これまで警戒レベルとの対応が複雑でわかりにくくなっていましたが、今回の改善により、避難情報の５段階の警戒レベルに対応し、避難の判断をしやすくなっているとのことでした。

例えば、これまでの大雨警報は、「レベル３大雨警報」という名称に変更になり、レベルの数字と一緒に情報が伝えられます。レベル４やレベル３の情報が発表された場合には、キキクルや河川の水位情報等の情報を確認して早めの避難を促すものです。但し、河川毎に発表する河川氾濫に関する情報は、１級河川などの大きな河川に限って発表されるものと限定されています。

そこでお伺いします。この新しい防災気象情報を受けて、県立学校における対応については、どのような取り扱いとされているのでしょうか。

答１．（保健体育科担当課長）

気象庁による防災気象情報については、２０２６年５月から５段階の警戒レベルをつけて運用されています。

県教育委員会では、新たな防災気象情報の運用に先立ち、気象庁の警戒レベルに応じた学校における対応例を、２０２６年２月１７日付けで各県立学校へ通知しております。

この通知では、気象台が発表する大雨や氾濫、土砂災害、高潮に関する防災気象情報について、例えばレベル３警報の発令までは「平常授業」とし、レベル４危険警報が発表された場合には、「校内待機、校外の避難場所への移動、保護者へ引き渡し等」、また、レベル５特別警報が発表された際は、「校内待機、校内の高い場所または崖から離れた場所に移動」とするなどの対応例を示しております。

これらの対応例については名古屋地方気象台に相談した上で作成したものであります。

なお、レベル３までの平常授業時としている場合であっても、気象や交通機関、通学路の状況等を踏まえ、学校長の判断により、授業の中止や臨時休業などの措置を決定できることとしております。

問２．神戸

9 月 8 日の大雨は、台風 24 号由来の熱帯低気圧と秋雨前線の影響で、東海地方を中心に記録的豪雨となり、名古屋市では 1 時間 104.5㎜の観測史上最大雨量を記録し、約 198 万人に避難情報が発令されました。8 日の雨では夜の帰宅時間帯に名古屋市営地下鉄やバス、JR 中央線など公共交通機関が相次いで運休し、多数の帰宅困難者が出たため、名古屋市は名古屋駅周辺などに退避施設を 17 カ所開設し、1400 人あまりが利用しました。名古屋市と瀬戸市は約 117 万人を対象に直ちに命を守る行動を取るよう求める「緊急安全確保」を発表しています。

最終的な被害の数値は、県内で床上浸水 396、床下浸水 605、私の住む春日井でも床上浸水が 73、床下浸水が 261 との数字が報告されました。実は私の自宅は庄内川のすぐ近くで、8 日の夜はインターネットの映像で川の水位を見ながら、いつ避難しようかとはらはらしていましたが、水位が下がってきたので安心して眠ることができました。次の日の朝、近くの交差点で雨につかってしまい動かなくなった車が 3 台放置されており、私がいつも通るアンダーパスでは、軽自動車が水につかり、5 日間も放置されていました。災害のニュースを他人ごとのように見ていましたが、まさか自分の周辺で現実に起こるとは思いもしませんでした。

この大雨被害の約 1 か月後、ある地域の防災訓練に参加しました。その時に高校生の保護者の方からこんな質問がありました。電車も止まり、道路はあちこちで渋滞し迎えに行くことも出来ないため、結局生徒が構内に泊まることになっ
高校もあったと承知しております。

そこでお伺いします。地域のよってその差はあったと思いますが、９月８日の大雨で、県立学校がどのように対応されたのか伺います。

答２．（保健体育科担当課長）

９月８日の大雨により、生徒の帰宅や保護者への引き渡しが困難となったため、県立学校において生徒が宿泊することとなった学校は２９校あり、生徒の人数は

８６９人でした。

各学校においては、生徒の健康状態の把握に努めながら、備蓄されている食料や飲料水を配布するとともに、保健室のベッドを活用するなどして、生徒の安全確保を図りました。翌９日には、警報の解除と公共交通機関の運行状況を確認した上で、生徒を順次帰宅させております。

また、同日は、前日からの大雨の状況を踏まえ、名古屋市内の県立学校の約９割の学校が、学校長の判断により臨時休業としました。臨時休業とした県立学校は、愛知県全体で５０校でした。

＜要望、神戸＞

今回の大雨で教育現場は大混乱だったと思います。実際に私の幼稚園でも 9 月 8 日の午後 3 時 44 分にレベル 3 大雨警報が発令され、緊急メールを出してすぐに保護者の方々に園児のお迎えをお願いしています。その 30 分後、4 時 19 分にレベル 4 の警報が発令され、再度の緊急のお迎えを要請するメールを発信しています。想像をはるかに超えた雨量で、現場は混乱しました。その 10 分後、幼稚園の電話が大雨による被害で不通となり、幼稚園の携帯電話で連絡を取りました。

ほとんどのお子さんは無事に保護者に渡しましたが、やはりお迎えに来ようとしても道路が大渋滞で来ることができない方がみえ、最後の一人のお子さんは園長が自宅に連れて帰り、保護者にお渡ししたのが夜の 9 時でした。小中学校でもあの大雨で一斉下校となり、実は幼稚園職員も仕事の途中で迎えに行けない、どうしたら良いのかと混乱しました。あの土砂降りの中を帰った学校、雨が小康状態になるまで待機させた学校など、様々な判断をどうするべきだったか、どこの教育現場も同じ混乱状態だったと思います。

今回の大雨のように、いきなり 100 ミリを超える雨量や線状降水帯の発生など、予測できない自然の力に、我々はどのように対応してよいのかわかりませんが、新しい防災気象情報と今回の対応事例をきちんと分析し、次回に備えて準備をしていただくよう要望して質問を終わります。